

TOC実践事例発表

事例発表①	危険度グラフを活用した 産業機械の進捗管理手法に関する研究	株式会社神戸製鋼所 技術開発本部 デジタルイノベーション技術センター 生産マネジメント研究室 弘中 諒
-------	----------------------------------	--

当社では様々な産業機械を一品生産している。納期遵守のためには、組立工程の開始予定日に必要な部品が揃っていることが重要となる。製品に搭載される部品は多種類・多数である点、製造LTが異なる点などから、部品の納期の優先度付けが困難となっている。私たちは製造業向けにフィーバーチャートを応用した「危険度グラフ」の手法をもとに、部門間共通指標によって部品の納期遅れリスクの高い部品を瞬時に抽出できる進捗可視化システムを開発した。本発表では本システムの特徴と試行状況について述べる。

事例発表②	R&Dにおけるバッファマネジメント の活用と見える化の苦悩	オムロン株式会社 技術・知財本部 ロボティクスR&Dセンタ プロジェクトマネジメントグループ1 グループ長 西山 哲人
-------	----------------------------------	--

多くの商品開発プロジェクトにCCPMを導入し、成果を出してきたが、今回初めて研究開発組織にCCPMを本格導入した。一定の効果を確認する一方で、商品開発部門と異なり、研究テーマのステージによって、傾向グラフを元にした組織レベルでのマネジメント判断ができないことが判明した。最大の原因は、「高い不確実性」を超えた「やって見ないとわからない」状況の存在。研究テーマの見える化の工夫とその経過を共有する。

事例発表③	TOCを活用した事で 変える事にネガティブだった我々が 変える事を楽しめるようになった♪	株式会社メディアテック 経営管理部 デジタルイノベーション課 大塚 康子/松吉 智美
-------	--	--

TOCを活用して様々な社内の改革を1年通して行いました。業務サポート課と言う雑務的な業務の中で、TOCを取り入れる事で小さな改善から大きな社内プロジェクトを成功させ、変える事を楽しめるようになりました。そして周囲の期待から、デジタルイノベーション課と課名まで変わってしまった1年をご紹介します。

事例発表④	独自の1on1研修体系に ちょっとTOC的要素を組み入れて、 とある会社でやってみた	株式会社夢育 浦野 晋宏
-------	--	-----------------

エフラットのダイヤモンド、4つの輪について、1on1研修体系とのマッチングを考え抜いて、ダイヤモンドの原石（十人十色の才能）の発見と磨き上げるとの表現にかえた研修プログラムと、アンビシャスターゲットとGROWモデルと融合させて、仕事の目標とそれぞれの才能とのマッチングをすることで、Will-CAN（才能）とMust（仕事の目標）の真部分集合であるダイヤモンドを輝かせるようにしてみました。それをとある会社で実践してみました。

事例発表⑤	玉石混淆のR&DマネジメントにCCPMを導入してみたこの1年	株式会社出雲村田製作所 マネージャー 板倉 正和
<p>掛けたりソースに見合うアウトプットが出せていない組織の課題感があり、開発テーマをうまく遂行する仕組みがないことが一因と分析しました。計画の作り方や管理方法は玉石混淆であり、実行マネジメントの"カタ"をつくるべく、白羽の矢を当てたのがCCPMです。"開発プロセス改革"と称して取り組んだこの1年の歩みを紹介します。</p>		
事例発表⑥	日立が考える スマート工場実現のための データ・システム活用	株式会社日立製作所 トータルソリューション統括本部 スマートインダストリー部 チーフプロジェクトマネージャ 吉田 秀信 社会イノベーション協創センター 社会課題協創研究部 研究員 八木 将計
<p>さまざまな製造のお客さまで、テーマとして、DX推進、IOT活用による業務効率化などのプロジェクトが数多く進んでいます。その中で、ともすると目標と改革すべき内容及びその実現手段がうまく設定できず、プロジェクトがうまく進まないなど多くの課題が発生していると考えています。このような課題に対して、うまく進めるための考え方の整理方法及び、弊社内での実現事例を紹介させていただきます。</p>		